加賀市長からのメッセージ　第028号　5月1日配信

加賀市は北陸唯一の国家戦略特区として、規制緩和を生かした様々な取り組みを進めています。自治体にとって、国家戦略特区は非常に強い武器です。産業集積や企業誘致、地元企業との協業など、非常に多くのビジネスチャンスが広がっています。

その1つの事実として、昨日加賀市はかまちょっかい株式会社とイノベーション創出に向けた連携協定を締結しました。同社はスタートアップ（ベンチャー企業・新興企業）で、現在、大聖寺のかが交流プラザさくらの3階にあるインキュベーションルームに入居しています。

同社代表の金城（きんじょう）社長は、出身地の沖縄県で創業。国家戦略特区を生かした、加賀市の企業支援体制や開発環境に魅力を感じ、社員とともに市に移住しました。

かまちょっかい社の「タグヨミ」というサービスは、電子タグを活用した在庫管理や業務の効率化を支援するものです。スマートフォンと読み込み用の端末を使い、簡単に利用することができます。このサービスは加賀市の企業である石川樹脂工業社との協業で生まれたもので、金城社長がインターン生として在籍したことをきっかけに開発に至ったそうです。

金城社長は25歳。2年前に経済産業省の「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択され、加賀市を拠点に自社サービスの技術開発を行っています。雪のない沖縄から来られ、冬の寒さにおどろいたそうですが、休日は市内での暮らしを楽しんでおられるそうです。

若い方が加賀市に集い、今までになかった仕事を手掛け、この地の人と協業・交流し、生活を楽しむ。これが今の加賀市です。協定式で「夢は一兆円企業」と意気込みを見せていただいた、この若き起業家の志を応援するとともに加賀市からたくさんの企業が育ち、若い方が多く世界に羽ばたいて欲しいと願っています。

(令和7年5月1日号)

加賀市長　宮元　陸